

第3章 第2次環境基本計画の振り返り

1. 市民アンケート結果にみる取組みの評価

第2次計画で設定した「取組みの方向性」について、施策の満足度と今後の施策としての重要度についての結果を点数化し、4つの施策の方向性に分類しました。

「満足度」「重要度」がともに平均よりも高い施策は【維持】、「重要度」は高いにもかかわらず「満足度」が低い施策は【強化】、「満足度」「重要度」がともに低い施策は施策を続けるかどうか、あるいは内容の抜本的見直しを図る【再検討】、「満足度」が高いにもかかわらず「重要度」が低いものについては、一定の施策効果があったとみなし、施策の優先順位などの【見直し】と位置づけています。

【維持】に分類されるのは、自然環境や景観の形成に関連する「自然環境の活用とふれあいの場の創出」「自然環境の保全」「景観形成と公園・緑地」と、循環型社会の形成に関連する「廃棄物の適正処理」となりました。【強化】に分類されるのは、生活環境に関連する「水環境の保全」「大気環境の保全」となりました。【再検討】に分類されるのは、生活環境に関連する「土壌環境の保全」、ならびに環境学習・活動に関連する「環境学習の充実」「環境保全活動の促進」、さらに地球温暖化対策に関連する「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギー導入」となりました。【見直し】に分類されるのは、「健全な資源循環の推進」と「文化財と歴史的まちなみの保全と活用」になりました。

分類の方法

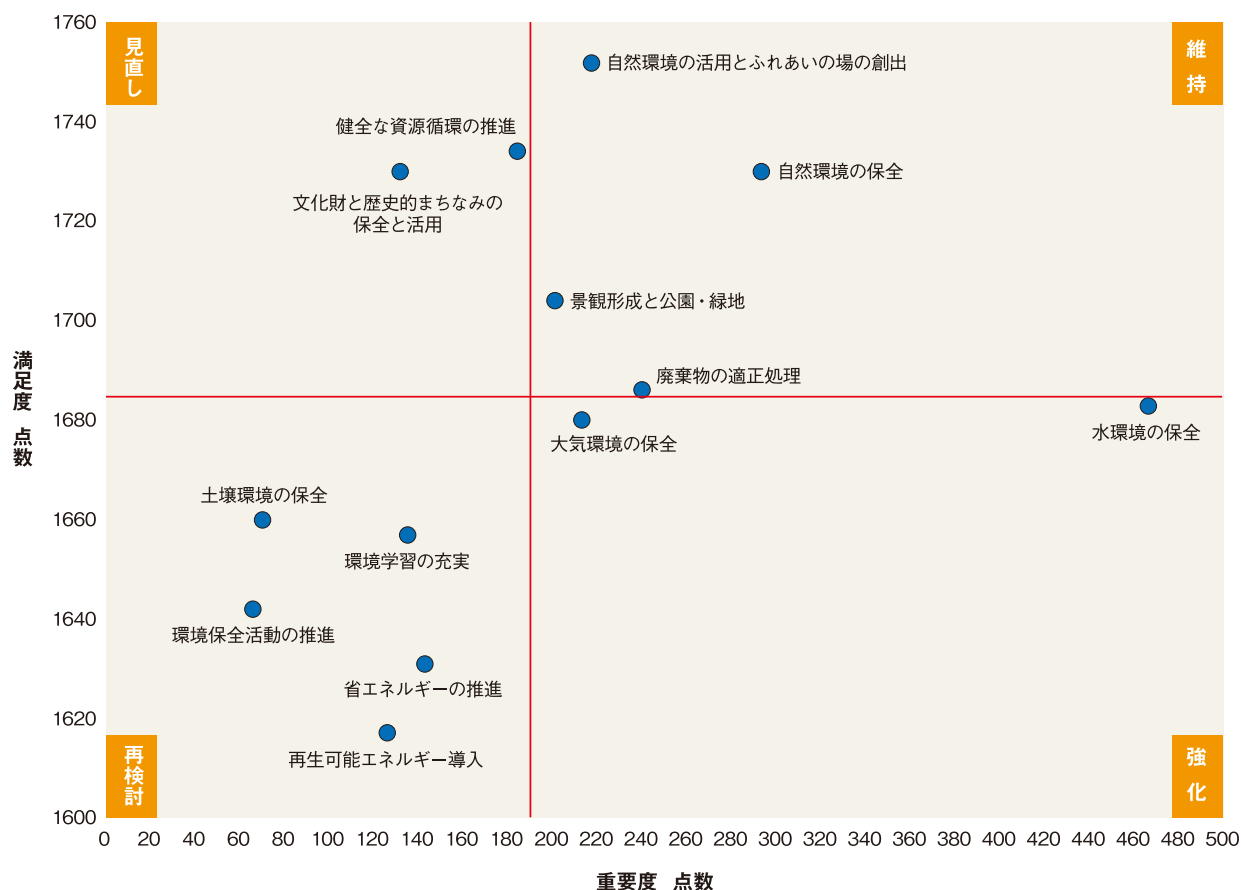
満足度の軸

「満足」5点、「やや満足」4点、「ふつう」3点、「やや不満」2点、「不満」1点とし、回答を点数による重み付けをした数値です。

重要度の軸

1位3点、2位2点、3位1点、回答を点数による重み付けした数値です。グラフの赤い線は平均値を示しています。

図表 3-1 直方市の環境施策に対する「満足度」と「重要度」の分布



分類	項 目	満足度 点数	重要度 点数
維持	自然環境の活用とふれあいの場の創出	1752	217
	自然環境の保全	1730	293
	景観形成と公園・緑地	1704	201
	廃棄物の適正処理	1686	240
強化	水環境の保全	1683	466
	大気環境の保全	1680	213
再検討	土壌環境の保全	1660	70
	環境学習の充実	1657	135
	環境保全活動の促進	1642	66
	省エネルギーの推進	1631	143
	再生可能エネルギー導入	1617	126
見直し	健全な資源循環の推進	1734	184
	文化財と歴史的まちなみの保全と活用	1730	132

注) 満足度点数の高い順

平均 (分類軸)	1685	191
-------------	------	-----

2. 第2次直方市環境保全行動計画 重点プロジェクトの振り返り

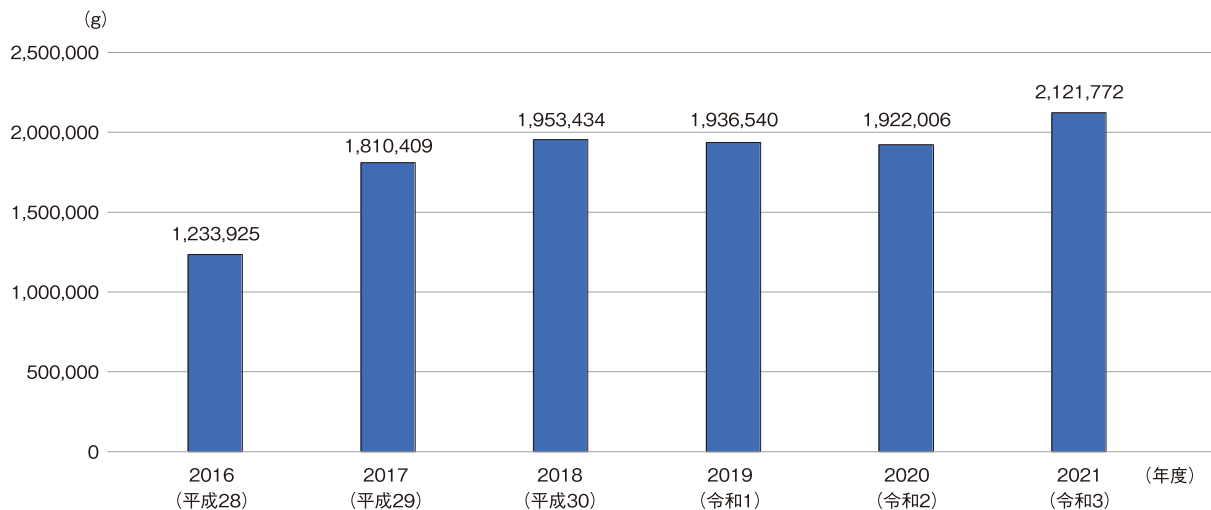
第2次直方市環境保全行動計画（以下、「第2次行動計画」とします。）では、直方市のよりよい環境づくりを目指し、環境保全行動計画の計画期間中に重点的に取組みを進めるプロジェクトとして、①環境学習プロジェクト（前期、後期共通）、②里地里山の保全再生プロジェクト（前期）、③循環型社会形成推進プロジェクト（後期）を実施しました。

① 環境学習プロジェクト

こどもたちが環境問題を「知ること」「考えること」「取り組むこと」は、これからの環境を守っていくための担い手の育成として非常に重要だと考え、小学校4年生を中心に環境学習を行ってきました。2015（平成27）年度より教育委員会と調整を行いながら、「夏休み版のおがた環境カレンダー」を作成・配布し、2016（平成28）年度から2022（令和4）年度にかけて夏休みの期間中、CO₂削減に向けた取組みを行いました。毎年300人以上が取組み、削減量は増加傾向にあります。

また、後期には学童保育にて環境授業とSDGsのカードゲームを行い、環境についての理解を深めました。

図表 3-2 「夏休み版のおがた環境カレンダー」の取組みによるCO₂削減量の推移



資料) 直方市

② 里地里山の保全・再生プロジェクト

「里地里山の保全・再生」を農業振興課と金剛山もととり保全協議会が連携し取り組みました。具体的には、上頓野金剛地区での保全活動や竹木の除間伐、遊歩道整備、苗木の植樹を行いました。平成30年度には、金剛山もととり保全協議会主催の直轄広域体験プログラム「里山ガイドと楽しむ里山散策と山のご馳走ランチ」のチラシを配付し参加者を募りました。例年好評のあじさいまつりはメディアでも紹介され、多くの観光客が訪れています。このため、警備員配置や簡易トイレ設置の支援を行いました。また、自然との共生に配慮しつつ、誰もが利用しやすく自然を楽しめるように雲取山登山エリア（通称：こもれびの森）の遊歩道の整備を行い、維持管理を行ってきました。

しかし、林野庁からの助成事業である「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」が終息し、金剛山もととり保全協議会メンバーの高齢化、新たな活動団体が不在などプロジェクトの継続が困難となったため、重点プロジェクトとしての取り組みは一旦中断しました。

③ 循環型社会形成プロジェクト

「みんなで取り組もう『ごみの減量化』はじめよう『分ければ資源・捨てればごみ』、循環型社会の形成」を行動指針として、市民・事業者・行政の連携によるごみ処理量の削減に取り組みました。事業者・市民への周知については、市報を活用した「環境だより」の発行などを行いましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、出前講座の実施件数が低迷しました。

資源拠点回収場所の増設については、自治区公民館における常設資源回収場所の設置を進めてきました。令和5年11月現在、市内12箇所への設置が済んでいます。また、直方市と民間事業者（FKエコロジー株式会社）との官民共同事業を実施し、「新聞、雑誌、ダンボール、金属・スチール缶、小型家電製品」などの資源物を持ち込める無人リサイクルシステム「ecoぴっと24」を直方中央公民館駐車場内に設置（令和5年11月20日閉鎖・令和6年3月移転予定）しました。

3. 第3次計画に向けた重点課題の整理

① カーボンニュートラル社会の構築に向けた取組み強化

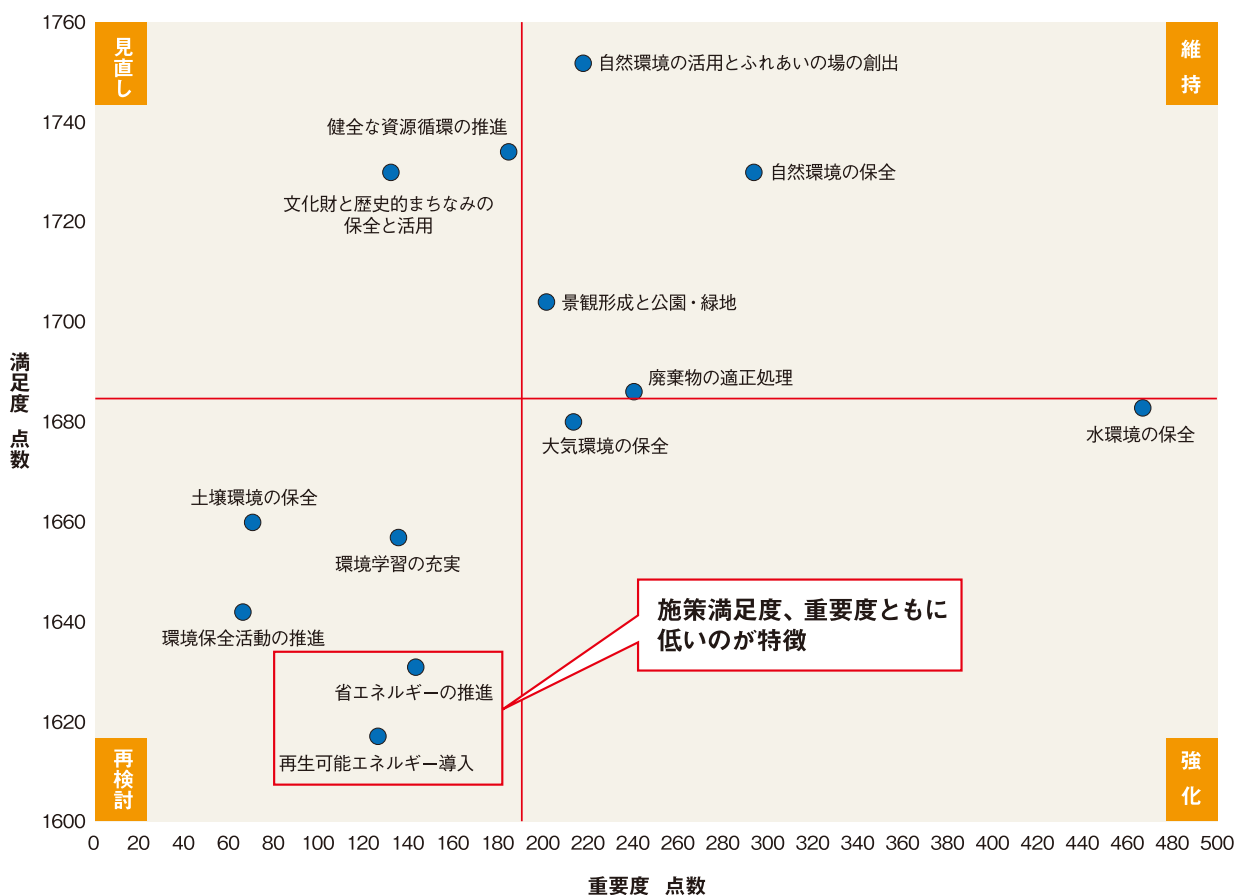
近年、地球温暖化による気候変動は世界的な環境危機として大きな課題となるなか、世界全体での脱炭素社会の構築に向けた転換となる「パリ協定」が2016(平成28)年11月に発効しました。国では、パリ協定を踏まえた「地球温暖化対策計画」(2016(平成28)年5月)、「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」(2019(平成31)年6月)をそれぞれ閣議決定し、2050年までに温室効果ガス80%削減に取り組むことを示しています。また、2020(令和2)年10月に我が国として「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を宣言し、2021(令和3)年6月には、「地球温暖化対策の推進に関する法律」が改正、公布され、同年10月には地球温暖化対策計画が改定されました。

本市においても、カーボンニュートラル社会の構築は重要施策と位置づけ、2022年(令和4)年2月26日に「ゼロカーボンシティ」宣言を行いました。第3次計画においては、ゼロカーボンシティを目指し、新たに地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定します。計画策定にあたり、市民アンケートや事業者アンケート結果から、カーボンニュートラルの取組みにおける課題が浮き彫りになっています。

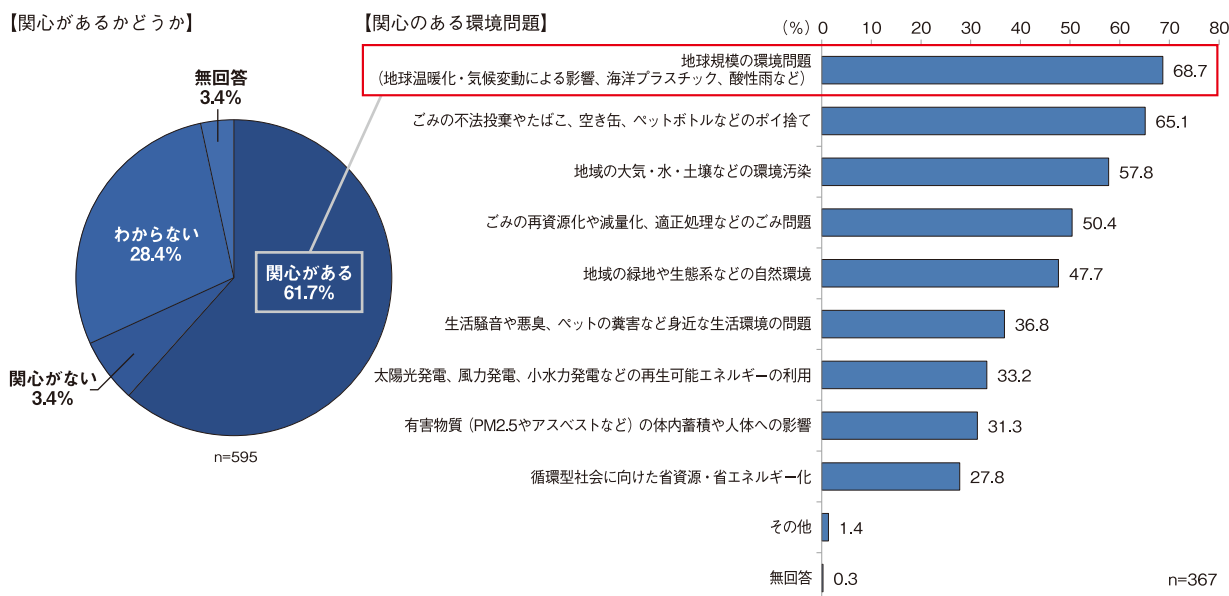
1. 市民の生活・取組みに関連づいた施策実施の必要性

市民アンケート調査の結果をみると、カーボンニュートラルに関連する施策である「省エネルギーの推進」「再生可能エネルギーの導入」は、市民の満足度、重要度がいずれも低い「再検討」に分類されます。施策満足度については、「満足・不満どちらともいえない」の割合が大きく、両施策は最下位となっています。一方で、環境問題に関心のある約70%の市民が「地球規模の環境問題(地球温暖化・気候変動による影響、海洋プラスチック、酸性雨など)」に関心があると回答しています。市民の関心ごとと、施策への意識が連動していないことから、今後は、施策の内容や成果を市民に分かりやすく発信することで、施策が市民の関心ごとに結びついていることを認識してもらい、施策を市民の生活や活動に関連づけていくことが重要になります。

図表 3-3 直方市の環境施策に対する「満足度」と「重要度」の分布（再掲）



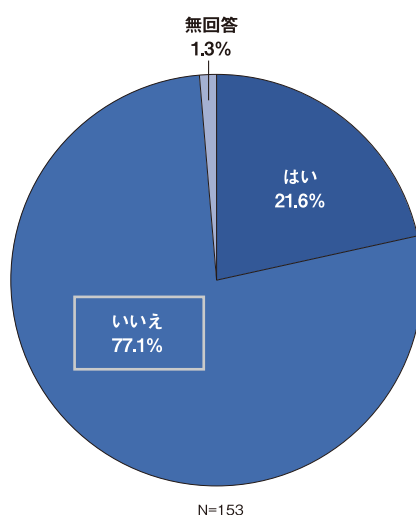
図表 3-4 環境問題への関心について



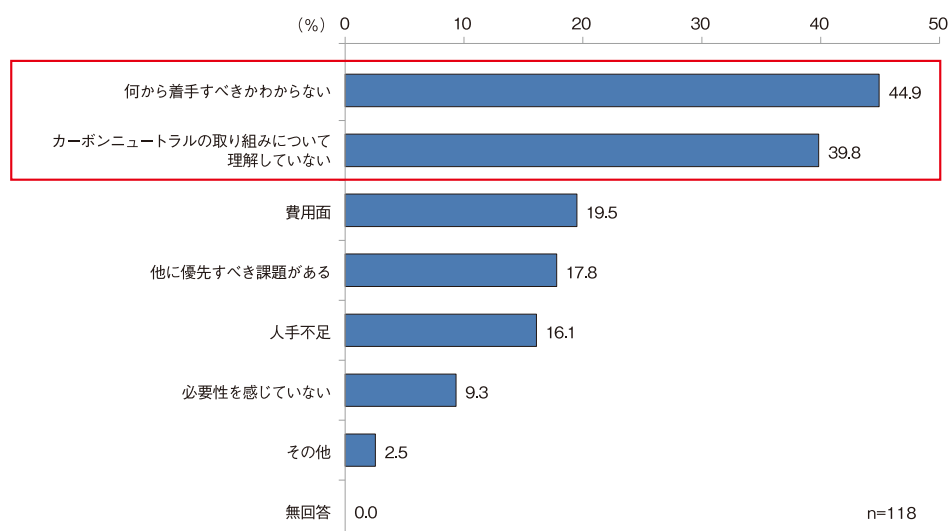
2. 事業所に対する周知活動、情報共有の強化

事業所アンケート調査の結果をみると、約8割の企業がカーボンニュートラルの取組みを行っていないことがわかりました。取り組まない主な理由は、「カーボンニュートラルへの理解・情報不足」となっていることから、今後は企業がわかりやすく情報を共有できる仕組みをつくっていく必要があります。カーボンニュートラルの取組みの柱となる省エネ、再エネの設備投資は費用がかかるため、公的補助を望む企業が多く、税制優遇など費用負担の軽減策が重視されていることがわかりました。一方、市で必要な取組みは、公的補助よりも「周知活動」「企業等への指導、支援」となっていることから、本市としてはソフト面の支援を充実し、公的補助については国や県などの関係機関と連携を図りながら、市内企業への導入を促進していくことが重要になります。

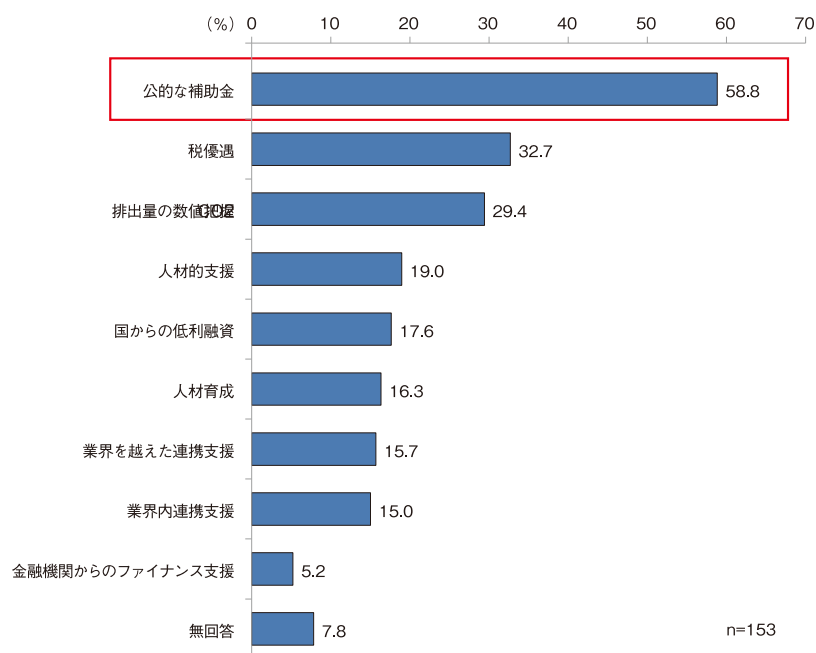
図表 3-5 自社においてカーボンニュートラルの取組みを行っているか



図表 3-6 カーボンニュートラルの取組みを行わない理由



図表 3-7 カーボンニュートラルの実現に必要なと思う支援 (3つまで)



図表 3-8 カーボンニュートラルの実現に市に必要なと思う取組み

n=39

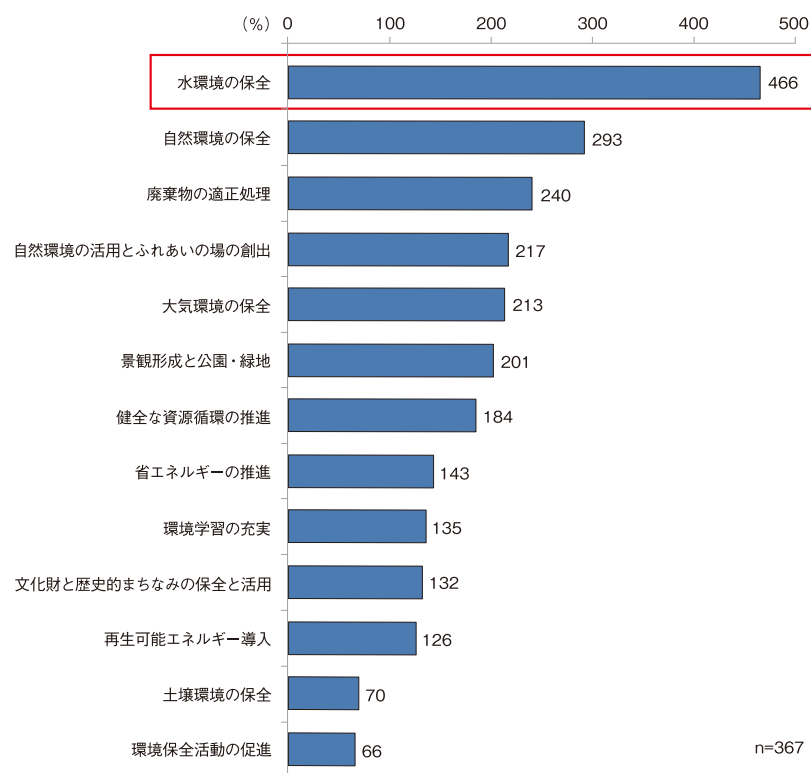
主な回答内容	回答数
周知活動	14
企業等への指導、支援	8
補助金等	7
公共交通機関・自転車利用促進	2
電気自動車、太陽光発電等	1
現状把握	1
市職員の取組み	1

② 水環境の維持・保全の強化

遠賀川や彦山川、犬鳴川などの水辺空間は次世代につなぐべき市の財産です。市民アンケート結果をみると、特に重要と考える市の環境関連施策の第1位は「水環境の保全」で、圧倒的に点数が高い施策となっています。また、今後改善していきたい直方市の環境として「水質」を挙げる市民が最も多いのも特徴的です。

遠賀川における市域の水質は概ね良好な状態にあります。市民が感じる「水環境」は必ずしも良いイメージではないため、清掃活動による河川の美化や、家庭からの雑排水の処理率を高めるなど、一層の水質向上を図っていくことが重要です。

図表 3-9 特に重要と考える直方市の環境関連施策



注) 重要度1位=3点、2位=2点、3位=1点とした合計値

図表 3-10 直方市の自然で最も残したいことや場所、最も改善したいことや場所（上位5位）

【最も残したいことや場所】

順位	主な内容	回答件数
1	福智山	51
2	遠賀川	34
3	自然	16
4	河川敷	13
5	公園	14
6	歴史	8
7	山	6
8	竜王峡	5
9	神社仏閣	5
10	駅	5

【最も改善したいことや場所】

順位	主な内容	回答件数
1	水質	46
2	不等投棄、ゴミのポイ捨て	20
3	公園	17
4	道	15
5	河川、池	14
6	商店街	14
7	交通	11
8	河川敷	7
9	駅	5
10	ごみの回収・分別	5

※上記の主な内容は、自由記入の項目をまとめたもの